

5. 第3学年「(4) 健康な生活と疾病の予防 エ感染症の予防」

1. 単元名 感染症の予防

2. 単元の目標

- ・感染症の予防について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。
(関心・意欲・態度)
- ・感染症の予防について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。
(思考・判断)
- ・感染症の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解することができるようにする。
(知識・理解)

3. 単元について

小学校では、病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや体の抵抗力を高めておくことが必要であることを学習している。また、中学生期は、異性への関心を強くもつようになり、異性と交際したいという欲求が高まる時期である。一方で、性に対する規範意識の希薄化が進んでいる社会環境の中で、エイズ及び性感染症の増加傾向とその低年齢化が社会問題になっている。そこで本単元では、その疾病概念や感染経路について理解できるようにするとともに、予防方法を身に付ける必要があることを理解できるように指導する。

なお、本単元は、学校における性に関する指導に関する内容が示されていることから、①発達の段階を踏まえて指導すること、②学校全体で共通理解を図ること、③保護者の理解を得ることなど配慮することが大切である。

4. 単元計画

	第1時	第2時	第3時	第4時（本時）
主な学習内容・学習活動	感染症の原因 ○感染症は、病原体が環境を通じて主体へ感染することによって起こる病気であること。 ○発病には、自然環境、社会環境、主体などの条件が関係していること。	感染症の予防 ○感染症を予防するには、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、身体の抵抗力を高めることが有効であること。	性感染症の予防 ○性的接触により感染する病気のことを性感染症ということ。 ○性感染症の予防方法を身に付ける必要があること。	エイズの予防 ○エイズの病原体はヒト免疫不全ウイルス（HIV）であり、主な感染経路は性的接触であること。 ○エイズは増加傾向にあり、低年齢化が社会問題になっていること。 ○予防方法を身に付ける必要があること。
	1. 感染症は病原体の感染によって起こる病気であることについて確認する。 2. 病原体の身体への侵入について個人で考えをまとめた後、グループで話し合う。 3. 感染症の発生の要因について事例を基にグループで考える。 4. 感染症の発生の要因には自然環境、社会環境、主体の状況があることを知る。	1. ロンドンに広がっていったコレラの原因を個人で考えた後、グループで話し合う。 2. スノーが取った対策を個人で考えた後、グループで話し合う。 3. 感染症を予防する方法について考える。 4. 感染症の予防3原則について知る。	1. 資料を読み、主人公の病気が何であることを考える。 2. 性感染症について知る。 3. 現代の性感染症の原因について考える。 4. 性感染症についての現状を知る。 5. 性感染症を予防したり、広がりを防いだりする方法を考える。	1. 病気の特徴から病名を考える。 2. エイズの疾病概念や感染経路について理解する。 3. 日本のHIV感染者（エイズ患者含む）の動向を知る。 4. 本時の学習を基に、HIVに感染しないための予防方法について考える。 5. エイズの予防方法を身に付けることが必要であることを理解する。

5. 展開例（4／4時間）

(1) エイズの予防

(2) 本時の目標

- ・感染症の予防について、学習したことや健康に関する資料等で調べたことを基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明することができる。（思考・判断）
- ・エイズの疾病概念や感染経路について理解し、予防方法を身に付ける必要があることについて言ったり、書き出したりすることができる。（知識・理解）

(3) 展開 ：ねらい ：学習内容 ：発問・指示など

時間	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 7分	1. 本時の学習課題について考える。 病気「X」は何だろう。 病気「X」は何だろう 1 病気「X」は、体の抵抗力を弱らせます。 2 病気「X」は、今のところ完全に治す薬はありません。 3 病気「X」は、発症まで10年かかることもあります。 4 病気「X」は、新規報告数が年々増加傾向です。 5 病気「X」は、20代と30代の若者層に多いです。 6 病気「X」は、血液や性的接触により感染します。 7 病気「X」は、予防することができます。	○教師の提示する内容から病気「X」について考えることにより、本時の学習内容に興味をもって参加できるようにする。 ○思いつく病名について、自由に発表させる。 ○病気「X」は、エイズであることを知らせる。 ○エイズは正しい知識をもち、適切な注意を払うことにより、感染から身を守ることができる病気であることを伝える。 今、エイズについて学ぶことは、大変重要なことであることを伝えましょう。 
展開 38分	2. 本時のねらいを知る。 エイズとその予防について考えよう 3. エイズの疾病概念、感染経路について理解する。 ・エイズの病原体はヒト免疫不全ウイルス（HIV）であること ・エイズの疾病概念と感染経路  4. 日本のHIV感染者（エイズ患者含む）の動向を知る。 日本のHIV感染者数（エイズ患者を含む）、感染が多い感染経路、感染が多い年齢層について考えてみよう。	○学習課題を提示し、本時のねらいを押さえる。 ○エイズはHIVというウイルスの感染によって起こる病気であること、三つの感染経路及び発症まで10年以上かかる場合があることを説明する。 ○HIVの感染力や他人に感染させる可能性について考えさせる。 ○医療の進歩により、体内のHIVの増殖を抑える治療薬が開発され、普通の生活ができるようになっているが、完全に治す薬は現在ないことを伝える。 ○資料を提示し、日本のHIV感染者とエイズ患者の新規報告数から日本の動向を確認する。 ○日本においては、一日平均1.3人がエイズを発症し、一日平均3人がHIVに感染していることを伝える。 ○資料から約9割を占める感染経路を予想させ、答えについて、自由に発表させる。 ○前時で学習した性感染症の学習を踏まえながら、性的接触による感染がほとんどであることを確認する。

- エイズの主な感染経路は性的接触であること。
- エイズ患者は年々増えており、若者に多く、社会問題になっていること。

5. 本時の学習を基に、エイズの予防方法について考える。

20代のあなたが考えるHIVに感染しないための予防方法を「HIV」の言葉を使って、説明しなさい。

<予想される反応>

- ・ HIVやエイズについての正しい知識をもって、感染しないようにする。
- ・ エイズは、HIVに感染して発病する病気なので、感染経路である性的接触をしない。
- ・ HIVに感染しているか、保健所で匿名・無料の検査を受けて、早期発見・早期治療につなげる。



6. 本時の学習のまとめをする。

- ・ 本時を振り返るとともに、教師のまとめの話を聞く。

エイズは、薬の開発のおかげで先進国では「死の病気」ではなく「生涯付き合っていく病気」になっています。しかし、現在、HIVを体内から完全に排除できる治療法はありません。これまでの授業で『知識のワクチン』を手に入れました。正しい判断力をもって、HIV・エイズから自分やパートナーの体を守っていきましょう。

- ・ 予防方法を身に付けることが必要であること。

- 感染者の多い年代を予想させる。
- HIV感染者のおよそ2～3割が20歳代及び30歳代の若者層であることを確認し、自分たちも人ごとではないことを知らせる。

- ワークシートを配布し、これまでの学習を基に、HIVに感染しないための予防方法について、自分の考えをワークシートに記入させる。
- 個々に記入後、四名程度のグループで発表し合わせ、その後幾つかのグループに発表させることにより、考えを深められるようにする。



グルーピングや雰囲気作りを工夫し、個々の意見を大切にしながら、活発な話し合い活動を促し、より多くの意見を引き出しましょう。

◆【思考・判断】

感染症の予防について、学習したことや健康に関する資料等で調べたことを基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明することができる。(観察・発言)

- エイズや予防について正しい知識をもつこと、正しい判断力をもつことが大切であることを伝える。
- 主な感染経路は性的接触であることから、感染を予防するには性的接触をしないこと、コンドームを使うことなどが有効であることにも触れる。

- ワークシートの記入から、知識・理解の定着を確かめ、必要に応じて指導する。
- HIVの感染は、感染経路を遮断することで予防できることを確認する。
- エイズは、身近に迫っている問題であり、予防方法を身に付けることが必要であることを伝え、まとめとする。

エイズは無用に恐れる病気ではないことや、今後の生活に希望がもてるメッセージを伝えましょう。

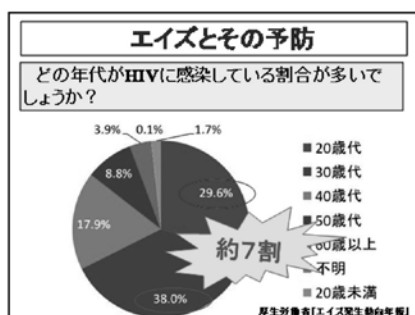
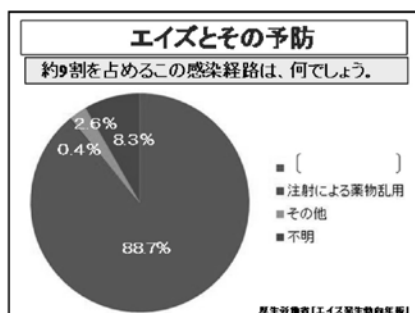


◆【知識・理解】

エイズの疾病概念や感染経路について理解し、また、予防方法を身に付ける必要があることについて言ったり、書き出したりすることができる。(ワークシートの記述)

(4) 資料等

【資料】



【ワークシート】

「健康な生活と疾病の予防」ワークシート（エイズの予防）

3年 組 No. 氏名

20代のあなたが考えるHIVに感染しないための予防方法を「HIV」の言葉を使って、説明しよう。

【自分の考え】

【友達の考え】

→付けたし・直し

【まとめ】

エイズの病原体（感染源）は、（ ）であり、その主な感染経路は、（ ）である。その増加傾向と若者の感染が多いことが問題になっていることから、私たちは（ ）を身に付ける必要があります。

感染症の予防3原則とは、①（ ）をなくすこと、
②（ ）を遮断すること、③（ ）を高めることです。

6. 特別活動との関連

中学生期の時期は性的な発達も著しく、情緒が不安定になるようなこともあり、様々な心の葛藤や遊びに傾斜する心と結び付き、性的な逸脱行動として表れることもあることから、性に対する正しい理解を基盤に、身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、適切な行動がとれるように指導・援助を行うことが大切である。特に、性に関する情報があふれる現代社会にあっては、本単元での学習を踏まえ、自己の行動に責任をもって生きることの大切さや、人間尊重の精神に基づく男女相互の望ましい人間関係の在り方などと結び付けて指導していくことが有効である。例えば、「思春期の心と体の发育・発達」「性情報への対応」「エイズや性感染症の予防」「友情と恋愛と結婚」などについて、生徒の発達の段階等を踏まえた題材を設定し、資料等を基にした話し合いや討論、専門家の講話を聞くなどの活動の展開が考えられる。特に、性については、個々の生徒間で、発達の段階や置かれた状況の差異が大きいことから、事前に、集団指導として行う内容と個別指導との内容を区別しておくなど計画性をもって実施する必要がある。

6. 第3学年「(4) 健康な生活と疾病の予防 オ保健・医療機関や医薬品の有効利用」

1. 単元名 保健・医療機関や医薬品の有効利用

2. 単元の目標

- ・保健・医療機関や医薬品の有効利用について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。(関心・意欲・態度)
- ・保健・医療機関や医薬品の有効利用について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。(思考・判断)
- ・保健・医療機関や医薬品の有効利用について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活の関わりを理解することができるようにする。(知識・理解)

3. 単元について

本単元では、健康の保持増進や疾病の予防をするためには、調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠が必要であること、生活行動と健康に関する内容として喫煙、飲酒、薬物乱用を取り上げ、これらと健康との関係を理解できるようにすること、また、疾病は主体と環境が関わりながら発生するが、疾病はそれらの要因に対する適切な対策、例えば、保健・医療機関や医薬品を有効に利用することなどによって予防できること、社会的な取組も有効であることなどが示されている。

この中から、本時では、「オ 保健・医療機関や医薬品の有効利用」、特に、「保健・医療機関の有効利用」について取り上げ、前時に学んだ保健・医療機関の機能についての知識を活用して、それらを有効に利用するための思考・判断を促すことにより、有効利用に対する必要感を高めることをねらいとしている。具体的には、前時で学習したことを自分たちの生活に当てはめたり、事例に応用したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立てて説明することができるようにする学習活動が組まれている。また、地域で発行している健康カレンダーと事例を組み合わせることにより、生徒の関心を高める工夫をしている。さらに、前時の学習を生かして思考力・判断力を高める指導を考慮し、観察や学習カードへの記述を参考に評価しながら、努力を要する状況に対して積極的に助言をすることも大切である。

4. 単元計画

時間	第1時	第2時(本時)	第3時
主な学習内容・学習活動	健康の保持増進や疾病予防の役割を担う保健・医療機関の有効利用		医薬品の正しい使用
	○健康の保持増進や疾病の予防には、保健・医療機関を有効に利用することができること		○医薬品は、正しく使用すること
	1. 健康カレンダーを読み、保健・医療機関について話し合う。 2. 地域の保健センターの役割について、話し合いで分かったことや興味をもったことを基に、自分たちの生活を振り返る。 3. 保健所や保健センターなどの保健機関、医療機関の機能について説明を聞く。 4. 本時を振り返り、地域には、健康の保持増進や疾病予防の役割を担っている保健・医療機関があることを知る。	1. 健康の保持増進や疾病の予防に関する事例について、前時の学習を基に、どの機関を利用すればよいかを書き出し、友達の発表や教師の説明を聞きながら確かめる。 2. 事例について誰のために行うのかを考えたり、課題についてグループで考えたことを発表し合う。 3. 地域の保健・医療機関がなかったらどうなるかについて予想したり、筋道を立てて説明したりする。 4. 本時を振り返り、地域の保健・医療機関の有効利用について知る。	1. 医薬品の説明書を基にしなが、使用回数、使用時間、使用量などの使用法について話し合いや意見交換をする。 2. 薬の正しい使い方を確認し、主作用と副作用について説明を聞く。 3. 本時を振り返り、医薬品の正しい使用について知る。

5. 展開例（2／3時間）

- (1) 保健・医療機関の有効利用
- (2) 本時の目標
- ・保健・医療機関の有効利用について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができるようにする。

(思考・判断)

(3) 展開 ：ねらい ：学習内容 ：発問・指示など

時間	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 5分	1. 前時に学習した内容について、友達の発表や自分の学習カードで確認をする。 ・健康の保持増進や疾病の予防のために保健機関や医療機関には、それぞれの機能があること。 2. 本時のねらいを確認する。 ・健康の保持増進や疾病の予防のためには、保健機関や医療機関がもつ機能をどのように利用すればよいかについて考えてみよう。	○発表や学習カードの確認により、前時の学習内容を振り返り、本時のねらいを提示する。 発表や学習カードを基にして、本時で活用が見込まれる知識をきちんと確認しておきましょう。 
展開 40分	3. 三つの事例を基に、保健・医療機関の有効な利用の仕方について考える。 ・健康の保持増進や疾病の予防に関する次の三つの事例について、それぞれ、どの機関（保健所、保健センター、診療所、病院）を利用すればよいだろうか。その理由も考えてみよう。 ・学習カードに示した三つの事例について書いた内容を友達の発表や教師の説明を聞きながら確かめる。 〈予想される反応〉 ○事例3で「病院」と答える生徒 「検査名から精密機械などが必要な検査だと思ったからです。」 ○事例3で「保健機関」と答える生徒 「食中毒を起こさないように、みんなのために行います。」 ・さらに、四人程度のグループを作り、新たに示された事例について、利用すべき機関を理由も考えながら選び、グループ内の意見をまとめて発表する。	○前時の学習や資料を参考にし、その理由も考えながら選ぶように促す。 ○これまで学習したことを踏まえて、自分の経験と比較したり、関係を見付けたりするよう促す。  前の時間で保健・医療機関の機能や役割について学習しました。自分の学習カードや活用した資料をよく確認しながら考えさせるようにしましょう。 ○友達の発表を聞きながら、自分の考えと比較したり、関係を見付けたりして確かめるよう助言する。 ○先の事例での学習を生かし、はじめに各自で取り組み、その後グループで活動するよう、活動の流れを指示する。

	【本時で取り上げた新たな事例】 ・不法投棄のゴミの悪臭 ・日曜日の急病人の診察 ・歯の健康維持のための健康相談 ・井戸水の水質検査 ・在宅介護サービス ・何科を受診したらよいか不明 ・生活習慣病が心配な場合の検診先 ・のどが痛く熱がある場合 4. 地域に保健・医療機関がない場合、私たちの健康へどのような影響を与えるのかについて考える。 ・「もしも、地域に保健・医療機関がなかったらどうなるだろう？」をテーマにして、グループ内でお互いに意見を出し合ってみよう。 ・ブレインストーミングの活動を通じて起こり得ることを予想するなど、テーマについて思い付いた自分の考えを付箋に書き出し、グループ内でお互いに意見を出し合う。 〈予想される反応〉 ・子供が育ちにくい ・病気がはやる ・長生きできない ・健康社会が保てない ・医療の情報が不足する ・グループで出た意見について同じような考えをまとめるなど、ディスカッションしながら、自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、自分の考えを深める。 〈予想される反応〉 ・なければ困る ・大切な機関 ・生活していく上でもっと使える場所	○各自の考えを基にして、グループ内で相互に意見を交換し合うよう助言する。 ○各機関がもつ機能を考慮しない利用で困ることなども必要に応じて補足する。  ブレインストーミングの原則について、確認しましょう。 ①判断・結論を出さない (結論厳禁) ②粗野な考えを歓迎する (自由奔放) ③量を重視する (質より量) ④アイディアを結合し発展させる (結合改善) 短時間でスムーズに意見を出し合えるように心掛けましょう。 ○各機関の機能を押さえながら、学習したことを生かして意見を交換するよう助言する。 ○お互いの意見を批判するのではなく、少しでも多くの意見に触れるようにする。 ◆【思考・判断】 保健・医療機関の有効利用について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。 (観察・学習カード) ○前時で学習したことを踏まえ、本時の学習内容を振り返りながら、学習カードを記入するよう促す。
まとめ5分	5. 保健・医療機関について、教師の説明を聞き、本時の振り返りを学習カードにまとめるとともに、健康の保持増進や疾病の予防のためには、各機関を有効に利用することが必要であることを確認する。	

(4) 資料等

①前時の学習カード (例)

1. 資料「地域の健康カレンダー」を読み、気付いたことを書き出してみよう。
2. 自分の考えを基にして、メモを取りながらグループ内で相互に意見を交換してみよう。
3. 他のグループの発表を聞いて、参考になった意見についてメモを取ろう。
4. このカレンダーは地域の保健センターで作成されたものです。どんな働き（機能）をする施設なのかを考え、書き出してみよう。
5. 次の施設について、先生の説明や資料を基にして機能をまとめてみよう。

(1) 保健センター	
(2) 保健所	
(3) 診療所	
(4) 病院	

②本時の学習カード (例)

Q. 次のようなとき、どの機関を利用したらよいだろうか。利用する機関に○を付け、選んだ理由を書いてみよう。

	保健センター	保健所	診療所	病院	利用しようと考えた理由（根拠）
事例1 受験生Aさん 「インフルエンザの予防接種を受けたい」					
事例2 3か月の赤ちゃんがいるBさん 「赤ちゃんに健康診査を受けさせたい」					
事例3 文化祭で食堂係のC先生 「腸内細菌検査を受けたい」					

※前の時間で学習したことや資料を参考にして考えてみよう。

③資料 (例)

- 1) 憲法第25条（生存権及び国民生活の社会的進歩向上に努める国の義務）
- 2) 公衆衛生に関する資料
- 3) 保健機関（保健センター・保健所）に関する資料
- 4) 医療機関（診療所・病院）に関する資料

6. 特別活動や総合的な学習の時間との関連

地域の保健・医療機関は、職場体験、見学や調査を実施する場所となることもあり、その際には、保健学習で学んだそれらの機関に関する知識を生かしながら、体験したり、見学したり、調査したりすることにより、体験活動をより深めることが期待できる。

第2節 特別活動（学級活動，学校行事等）

1. 学級活動

1. 題材名 第2学年「思春期における性意識と行動」（内容（2）－ク）

2. 題材の目標

- ・性的な発達に適切に対応し，責任ある行動をとることができるようにする。

3. 題材について

○学習指導要領及び解説の位置付け

- （1）社会の一員としての自覚と責任（第2－（2）ウ）
- （2）性的な発達への適応（第2－（2）ク）
- （3）育成する態度として
 - ・責任ある行動をとろうとする態度

○題材設定の理由

本題材は，性的な発達への適応に関わる内容である。思春期になると，身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し，性衝動が生じたり，異性への関心が高まったりする。また，現代社会では，テレビ，ビデオ，新聞，携帯電話，インターネットなど，いろいろなものを通じて性情報を目にしたり耳にしたりすることで，更に性への興味・関心が高まることもある。

その際，性の逸脱行動につながることもあることから，思春期における性的な発達に適切に対応し，責任ある行動をとることができるようになることが重要であると考え，本題材を設定した。

○本題材の指導

第1学年で学習している保健体育科保健分野「心身の機能の発達と心の健康」の学習を基盤に指導することとする。また，事前のアンケートの結果から，自分たちが性や異性に興味・関心が出てくる時期であることを認識させる。

本時では，インターネットのゲームサイトでやりとりをしている中で，異性への興味をもったAくんが相手に返信したメールの内容やそれを書いた理由について考え，思春期の性意識を理解できるようにする。また，現代社会においては，インターネット等を介した人間関係が大きな広がりをもつ中で，性の逸脱行動につながることもある。子供を取り巻くネット社会の現実を踏まえた上で，適正な行動を選択することが大切であることを，話し合いを通して理解し，責任ある行動をとるための自分の目標を自己決定できるようにする。

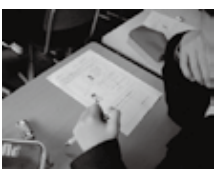
4. 指導計画

	日 時	活 動 内 容
事前	10月3日	○体や性に関するアンケートによる実態把握を行う。
本時	10月23日	○性に関して，責任ある行動をとるための目標を自己決定する。
事後	11月15日	○本時に学習したことを基に，自分の将来像をイメージしながら『自分の夢カード』に記入する。

5. 本時の展開

目指す生徒の姿

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、自主的、自律的に日常の生活を送ろうとしている。	日常生活における自己の課題を見いだし、自己を生かしながら、よりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	集団や社会への適応及び健康で安全な生活を送ることの大切さや実践の仕方、自他の成長などについて理解する。

時間	学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 5分	1. 第1学年の保健体育科保健分野「異性の尊重と性情報への対処」で学習した事を確認する。  性に関する心の面 ①異性への関心が高まる。 ②性衝動が生じる。	○思春期の性に関する心の面に注目させ、本時の目標につなげるようにする。 アンケートの結果を引用しながら、性的なことに関心があったり、様々な感情があったりする時期にあることを伝え、そのことは成長の過程で自然なことであることを認識させます。  ○体、性に関するアンケートの結果を示す。
展開 35分	目標 思春期の性意識と行動について考えよう。 2. 事例を提示し、Aくんがメールで返信本文を予想し、学習カードの吹き出しに書く。また、なぜそのように返信したかの理由を考え、記入する。 AくんはBさんに「OK」とメールを返信しました。OKの前にどんなことを書き込んだのだろう。Aくんの立場になってメールの本文を書こう。また、なぜそのように書き込んだのか、理由を書こう。 〈予想される反応・理由〉 ・異性に誘われて嬉しかった。 ・Bさんに会ってみたいという軽い気持ち。 ・自分のことをほめてくれて、うれしくて舞い上がった。 ・異性に興味があった。	○学習カードを配布し、教師が事例を読む。 ○メールの本文を吹き出しに記入させる。 ○書き込んだときの気持ちを考えながら、理由を記入させる。 ○メールの本文が書きにくい場合は、理由を先に記入させてもよい。  ○性を意識した言葉などに気付かせる。 「カッコいい」「♡マーク」「二人で会いたい」等 ○一見、性的なことではないと見えても、性への関心が強く影響していることに気付かせる。 「異性への関心、性衝動」という意識があることを強調する。 ○会いに行った後の結果を示す。

週末、AくんはBさんに会いに行きました。待ち合わせ場所に来たのは、女の人と二人の男の人でした。Aくんは、暴力を受け、お金を要求されるトラブルに巻き込まれてしまいました。

- ・出会い系サイト等に起因する事犯の現状と対策のグラフから現状を知る。

3. 次の発問について考える。

もし、このような結果にならなかったら、誘いにのってよいのだろうか。

〈予想される反応〉

- ・友達になれたから、会ってよかった。
- ・ほかの学校に友達ができて、世界が広がった。
- ・軽い気持ちでOKするのはよくない。
- ・異性へ興味があっても、すぐに行動に結びつけちゃだめ。
- ・二人だけで会うのはよくない。

- ゲームサイトや自己紹介サイトなどの、コミュニティサイト等を利用したことが原因で、被害につながっていることもあることを伝える。
- 最近では出会い系サイトばかりでなく、コミュニティサイトが原因で性の逸脱行動につながることもあることを伝える。
- 行かなければよかった、誘いにのらなければよかったという生徒の考えに対して、被害になっていなければ誘いにのってよいのだろうかと問いかけ、次の3の課題につなげる。
- なぜそう考えるのか、理由を考えさせ、全体で意見を出し合いながら話し合いを深める。
- 意見が出ない場合は、小グループで話し合い、その後、全体で意見を出し合い、話し合いを深める。

ネット社会が広がっているという現実を踏まえた上で、適切な行動選択ができるか考えさせます。



◆【思考・判断・実践】

- 理由を考え、自分の意見を言うことができる。
- これからの生活の中で、正しく判断し、行動していく力を付けていくことが大切であることを伝える。

4. 本時の授業の感想を書く。

今までの学習を振り返り、責任ある行動をするための、自分の目標を決める。

5. 教師の話を聞く。

- 話し合いで出されたことを参考に、学習カードに記入させる。

◆【思考・判断・実践】

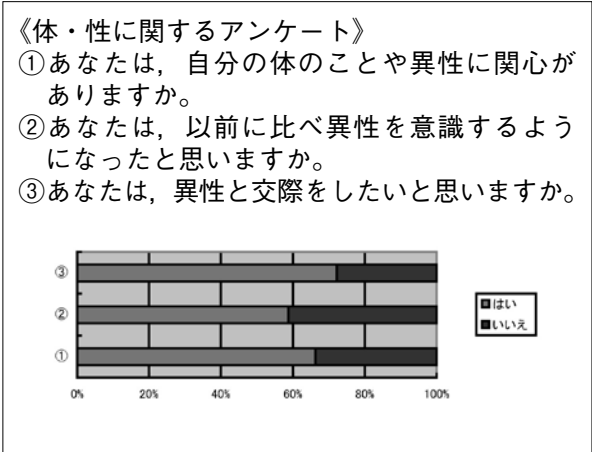
- 責任ある行動をとるための目標を決めることができる。



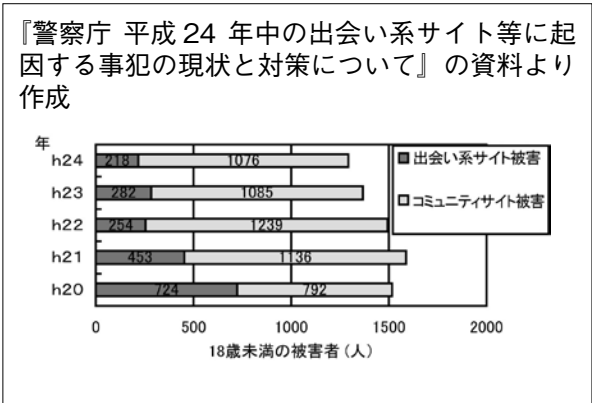
話し合い活動を踏まえた自己決定へとつなげます。

- 性に関するものは、身の回りにいろいろあり、興味をもつことは自然なことである。性に関して、自分の行動に責任をもつことが大切であることを伝える。
- 中学生の時期は、異性に興味・関心がある時期だが、いろいろな誘惑に流されない気持ちをもつこと、衝動的に行動してはいけないことを伝える。
- 将来に向けて、自分を大切にしてほしいことを伝える。

資料①



資料②



学習カード

年 組 氏名

中学3年生のAくんは、携帯電話のゲームサイトを利用していました。そのサイトではミニメールと呼ばれるサービスで、見知らぬ人とも簡単に連絡を取ることができました。

ある時、Aくんはミニメールを通じて高校3年生の女の子 B さんと仲良くなりました。メールのやりとりをしたり、写真を送ったりするようになりました。ある日、A くんは B さんからメールが来ました。

B さん

今週の土曜日 ひま？一緒にカラオケ行かない？写真のAくん、すごくかっこいい。二人で食べたことないし、Aくんに会いたいな～二人だけで会いたいな。♡

Aくん

Aくんの立場になって、メールの本文を書こう。

Ok！行くよ！

なぜそうように書き込んだのか、その理由を書こう。

2 年 組 氏名

今日のめあて 思春期の性意識と行動について考えよう

今日の授業の感想を書こう。

性に関して、責任ある行動をするための、自分の目標を書こう。

6. より効果的な実践のために

思春期の時期にある生徒が、性に関する学習に対して主体的に、かつ自分のこととして誠実に学習に取り組めるように工夫する必要がある。リラックスして学習できる教室の雰囲気を作るとともに、事前に学級で行ったアンケート結果などを示すことも大切にしたい。また、生徒の実態を踏まえた指導が必要であることから、養護教諭とのTTで授業を進めることも効果的である。事例を基に考えるケーススタディや自分の考えが伝えやすいように、少人数でのディスカッションなど小グループでの学習形態を取り入れたりすることも有効な方法と考えられる。

7. 保健体育科保健分野の関連

保健体育科保健分野では、第1学年で「心身の機能の発達と心の健康」において、思春期には性機能の成熟に伴い性や異性への関心が高まったり、性的欲求が強くなったりすることを学習する。また、性情報の中にはいたずらに性衝動をあおるものもあり、こうした情報に惑わされずに自分の考えをしっかりとった責任ある行動をとることが大切であることを学習する。こうした学習と関連させながら、指導計画を作成することが必要である。

2. 学校行事「薬物乱用防止教室」

1. 活動名「薬物乱用防止教室」

2. 学習指導要領及び解説の位置付け

学校行事の目標

学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的態度を育てる。

健康安全・体育的行事のねらいと内容

心身の健全な発達や健康の保持増進などについての理解を深め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するような活動を行うこと。

3. 目指す生徒の姿（健康安全・体育的行事）

集団生活や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団生活や生活についての 知識・理解
心身の健全な発達や健康の保持増進、運動などに関心を持ち、自主的、自立的に健康安全・体育的行事に取り組もうとしている。	学校や学年の一員としての自覚をもち、安全な行動、規律ある集団行動の仕方などについて考え、判断し、協同して実践している。	健康安全・体育的行事の意義や、心身の健康の保持増進、安全な生活、体力向上の方法などについて理解している。

4. 活動について（考え方、特徴）

学習指導要領解説特別活動編では、健康安全・体育的行事の内容の一つとして薬物乱用防止指導が例示され、行うに当たっては、総則（※下記注釈参照）の趣旨を十分に生かされるよう配慮することが記載されている。また実施上の留意点としては、「有害性や違法性、防犯や情報への適切な対処や行動について理解させ、正しく判断し行動できる態度を身に付けること」とある。以上のような考え方を踏まえて、各学校において喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する学習が行われることが大切である。

そして、そのような取組を通して、中学生が健康の大切さを理解し、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくために必要な資質や能力の基礎を養い、実践力を身に付けることができるようにすることが重要である。

※注釈

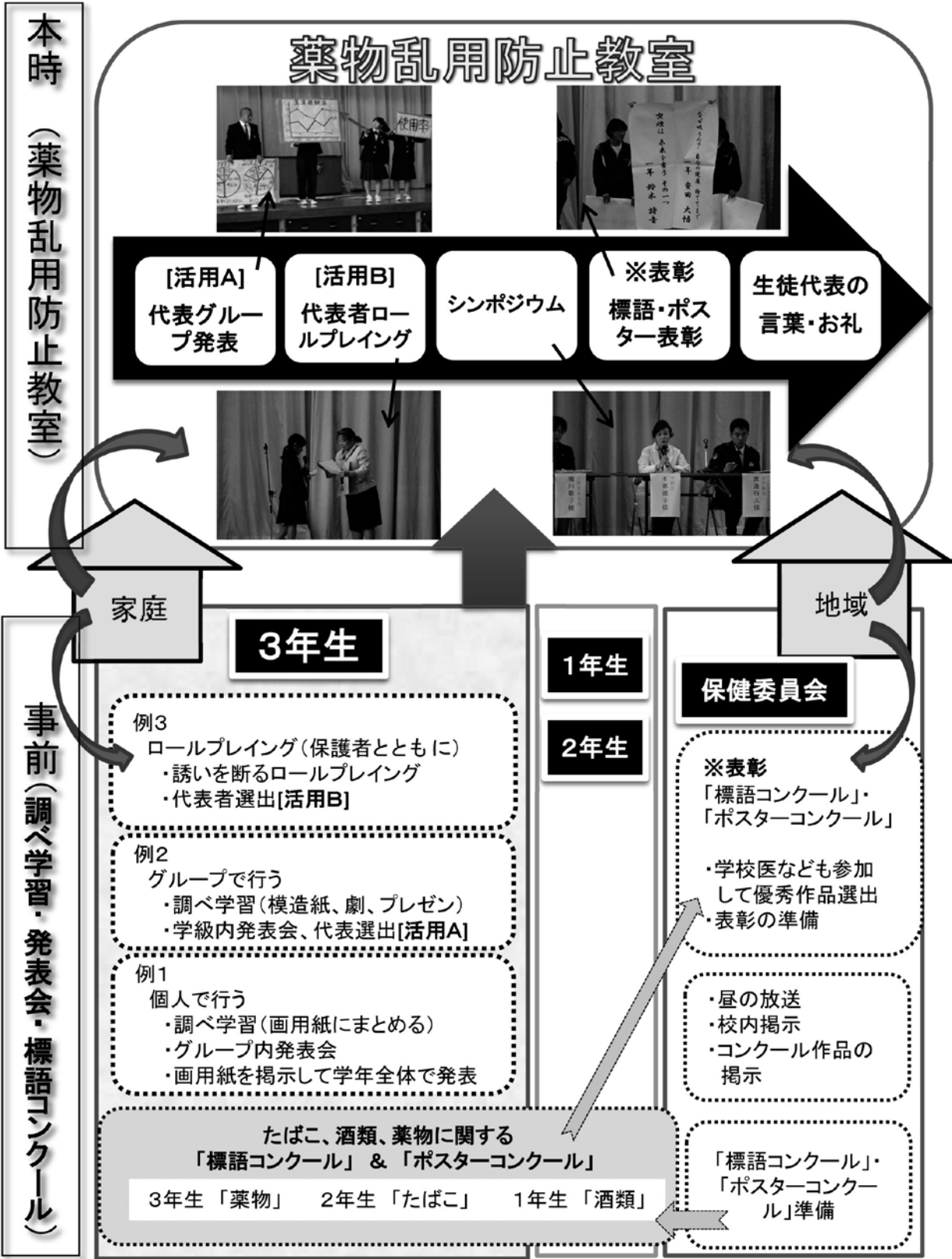
総則 第1 教育課程編成の一般方針

3 学校における体育・健康に関する指導について

- ・生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて行うことが大切であること。
- ・保健体育科の時間や特別活動などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。
- ・家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活における活動の実践を促すこと。
- ・生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること。

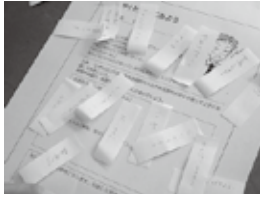
5. 指導計画の全体像

3年生や生徒保健委員会を主体とした事前の取組と、本時の概略を示す。



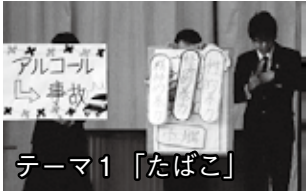
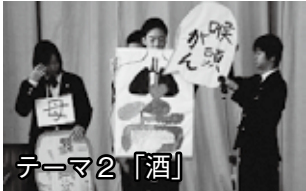
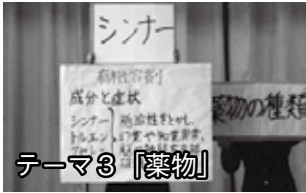
6. 具体的な展開例

(1) 事前の取組

健康・安全や学校給食に関する委員会の取組	教科等の取組例 1	教科等の取組例 2	教科等の取組例 3
生徒保健委員会を主にした取組 〈喫煙、飲酒、薬物乱用防止キャンペーン〉	例 1 〈個人で行う調べ学習とグループ内発表会〉	例 2 〈グループで行う調べ学習と学級内発表会〉	例 3 〈保護者を招いて行うロールプレイング〉
朝や帰りの会など ①保健委員がキャンペーンの取組として行うコンクールの説明をする。 ・「標語コンクール」 ・「ポスターコンクール」 ②各自で応募作品を作成し保健委員会に提出する。 ※3年生は、保健体育の学習で学んだ知識を基に、1, 2年生は小学校において学習した既習の知識を基に作成 実施方法（例示） 「標語」は全学年で実施 1学年 「たばこ」 2学年 「飲酒」 3学年 「薬物」 ※学年ごとにテーマを決めて行くと、3年間で一通り実施できる。 「ポスター」は自由参加方式でもよい。 ※表彰 優秀作品を「薬物乱用防止教室」当日に表彰する。	主に保健体育3学年 ①各自で調べる内容を決める。 (たばこ、酒類、薬物) 調べる内容（例示） ・薬物の種類や特徴について ・健康への影響について・広告分析 ・最近の事例から ・諸外国との比較 等 ※「たばこ」「酒類」「薬物」の三つのテーマを、学級内でバランスよく分担させる。 調べ学習のための教師の準備（例示） 資料の準備 ・教科書、副教材・「かけがえのない自分 かけがえのない健康」文部科学省 ・「喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する指導参考資料 中学校編」（財）日本学校保健会 など ホームページの紹介 ・都道府県教育委員会、薬務課など・（公財）日本学校保健会・警察庁・保健所など ※（次ページの注も参照） ②調べ学習の方法、場所などの計画を立てる。 ③調べ学習を進め、各自で画用紙にまとめる。 ④画用紙を基にグループ内発表会を行う。 ⑤発表後は、全学級生徒分の画用紙を廊下等に掲示する。	主に保健体育3学年 ①四人程度のグループで調べる内容を決める。 (たばこ、酒類、薬物) 調べる内容（例示） ・薬物の種類や特徴について ・健康への影響について・広告分析 ・最近の事例から ・諸外国との比較 等 ※「たばこ」「酒類」「薬物」の三つのテーマを、学級内でバランスよく分担させる。 調べ学習のための教師の準備（例示） 資料の準備 ・教科書、副教材・「かけがえのない自分 かけがえのない健康」文部科学省 ・「喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する指導参考資料 中学校編」（財）日本学校保健会 など ホームページの紹介 ・都道府県教育委員会、薬務課など・（公財）日本学校保健会・警察庁・保健所など ※（次ページの注も参照） ②調べ学習の方法、発表方法（模造紙を用いた発表、劇風に仕立てた発表、プレゼンソフトを用いた発表など）などの計画を立てる。 ③発表の準備を進める。 ④学級内発表会を行う。 活用A 「たばこ」「酒類」	主に保健体育3学年 ①教科書等を用いて、知識を習得する。 ②誘いを断るロールプレイングを行う（断ることの重要性や適切な断り方について学習してから実施）。  ブレインストーミングを通じて断るせりふを考える。 ※誘い役として保護者の協力を得ると効果的である。  ③ 活用B 適切な断り方ができている生徒を代表にし、「喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室」当日にステージ発表する。

③全作品を掲示する。  昼の放送 ○関連する内容や、標語コンクール優秀作品を紹介する。 	⑥教科書等を用いて、知識の習得を確実にする。 ※上記の教師の準備に関わり、可能ならば、時間外に、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、警察署、保健所、保健センターなどの協力を得てフィールドワークを行うことも一案である。そのためには、事前の連絡や調整が不可欠である。	「薬物」のテーマごとに代表を決め、「喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室」当日にステージ発表する。 ⑤教科書等を用いて、知識の習得を確実にする。 ※ロールプレイングの詳細は、「喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する指導参考資料」(財)日本学校保健会を参照のこと 
---	---	--

(2) 本時（全校生徒で行う薬物乱用防止教室）の展開例

活動内容	指導上の留意点	備考
特別活動：学校行事 1. 開会の言葉・校長先生の話 2. 活用A 3年生の代表グループが発表を行う。 ①テーマ1「たばこ」 ②テーマ2「酒類」 ③テーマ3「薬物」 3. 活用B 3年生の代表者が、保護者と共にロールプレイングを行う。 ※活用Aと活用Bは、事前学習の方法に応じて、適宜実施するとよい。	○3年生の生徒代表者（保健委員長など）が司会進行を行う。 ○たばこ、酒類、薬物の三つのそれぞれのテーマについて、代表グループがステージ発表を行う。 ○時間があれば、会場の生徒からの質問を受け、代表グループが答える。 ○3年代表者が、たばこ、酒類、薬物の誘いを断るロールプレイングを実演する。	テーマ1「たばこ」  テーマ2「酒」  テーマ3「薬物」  一緒に飲まない？  僕は大事な進路を控えているので飲みません。それより先輩！勉強教えてくれませんか？

4. 会場から、質問を受け、シンポジストが回答する。 ↓ シンポジスト例 ・学校医 ・学校歯科医 ・学校薬剤師 ・地元の警察官 ・民生委員 ・保健センター など 5. シンポジストが中学生に向けてのアドバイスやメッセージを伝える。 6. ※表彰 コンクールの表彰式を行う。 7. 保護者代表の言葉を述べる。 8. 生徒代表が言葉・お礼を述べる。 9. 閉会の言葉	○会場からの質問を受け、シンポジストが回答する。   ○中学生が心身ともに健康で生きていくことの大切さなど、各立場からメッセージを伝えてもらう。 ○内容が重複しないよう、あらかじめシンポジストの中で分担をしておく。  ○生徒保健委員長が賞状授与を担当する。 ○子供たちへの愛情あふれるメッセージを伝える。 ○3年生の代表生徒が、感想やお礼の言葉を述べる。	警察官の方に質問します。実際に、埼玉県では、薬物乱用に関してどのような事件などがあるのですか？ お答えします。埼玉県では…といったことがあります。更に詳しいデータについては、私も調べておきます。  地域で活動する私たち民生委員は、心配だなと思うときは、皆さんに積極的に声を掛けます。私たちの声に耳を傾けてくださいね。  
---	--	---

(3) 事後の活動

1. 感想を書く。 2. コンクール作品を地域に発信する。	○感想は保健だよりに掲載家庭や地域にも発信する。 ○標語は印刷物にして配付し、ポスターは飲食店に掲示させてもらうなど、情報発信を行う。	
---	---	---

7. 活動のポイント

(1) 学校行事として学校全体を盛り上げるための工夫について

1か月程度の「喫煙、飲酒、薬物乱用防止キャンペーン」期間を設け、様々な取組を展開することにより、生徒の興味や関心、責任感、連帯感等を高める。

- ・「標語コンクール」や「ポスターコンクール」など、全校生徒が参加する取組を実施する。
- ・学年ごとにテーマを設け、一斉に調べ学習を行ったり、広告分析やロールプレイングなどの学習に取り組んだりして、事前の活動から全校生徒を巻き込む雰囲気作りが有効である。
- ・前年度までに実施した標語やポスターなどの作品等を掲示し、雰囲気を高め、学習を促す。

(2) 生徒保健委員をリーダーとして育てる取組について

「標語コンクール」や「ポスターコンクール」を、生徒保健委員会の一大イベントとして位置付けるほか、企画や運営に関わらせることにより、生徒保健委員を学校のリーダーとして育てる。

- ・学級への連絡や実施時の指示、標語の回収、校内への掲示、表彰式の準備や運営を行う。
- ・標語の優秀作品を「保健委員会だより」としてまとめ、家庭や地域に配付する。
- ・キャンペーン期間に、関連する内容を「昼の放送」の中で流す。
- ・生徒保健委員が地域の店等に出向き、未成年者飲酒防止を訴えるポスターを掲示させてもらう。

(3) 3年生を主体とした取組の効果について

今回は学校のリーダーである3年生を主体にした取組を例示した。3年生が主体的、積極的に取り組む姿を前面に引き出すことにより、最上級生としての自尊感情や誇りを高める効果が期待できる。また同時に、下級生に望ましい上級生の姿を手本として示すことも可能となる。さらには、卒業を間近に控えた時期に合わせて実施することにより、3年生に、将来の生き方について考えさせるよい機会にもなると考えられる。

8. より効果的な実践のために

(1) 講師を招いた講演会形式の薬物乱用防止教室を実施するだけではなく、教科等と関連させ、横断的で内容豊かな取組にしたい。

(2) 自尊感情が、青少年の危険行動と関連していることを踏まえ、薬物乱用防止教室においても、生徒一人一人の自尊感情を高める視点をもって実施したい。そのために、ブレインストーミング、調べ学習、ロールプレイング、ケーススタディーなど、生徒自らが主体的、積極的に参加し、自己の存在感を実感できるような工夫を図ることが大切である。

(3) 地域や関係団体等の人々との交流を図る。例えば、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、警察等との連携により、信頼できる専門的な知識や情報を得るようにしたい。また、保護者や地域の大人が、愛情をもって自分たちを見守ってくれていることを実感できる、地域ぐるみの取組にしたい。シンポジストとしての助言を得るだけでなく、ロールプレイングの誘い役を保護者に依頼するなど、日頃から保護者や地域の方々、さらには関係機関等とも連携を図るようにしたい。

9. 保健体育科保健分野との関連

保健体育科保健分野では、第3学年の「健康な生活と疾病の予防」において、「喫煙、飲酒、薬物乱用と健康」について学習する。そこで習得した知識を、誘われた場合の対処法に関するロールプレイングなどの発展的な学習に活用したり、薬物乱用防止教室の学習を保健分野の学習に関連付けたりするとより有効である。